

# みつぎ便り

150号  
3月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成31年3月1日 [https://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)



クリスマスローズ  
このところの暖かさで公園は春めいてきました。公園のボート小屋の近くの花壇に寒い冬から頑張つて咲いている花があります。名前の通りクリスマスローズの頃に花を咲かせるのです。キンポウゲ科に属するこの花の原産地はヨーロッパ、中国で和名はフユボタンの言い、草丈十五〜三十センチの多年草です。根はサポニンを含み強心剤、利尿剤、害虫駆除にも使われていました。花は今見事に咲いています。



下向きに咲いていて、私にははローズ(薔薇)と言うイメージはあまりありませんが、人気が花です。(重)

ハハコグサ (母子草)

見次公園のあちこちに、多数の葉が地面に放射状についている状態(ロゼットと言います)の小さな草が見られます。その一つがハハコグサ(母子草)です。四月〜五月に根元から茎が数本分かれて伸び、淡黄色の小さい筒状の花を咲かせます。葉は肉厚で茎も産毛に覆われているので、全体が緑白色に見えます。古くは御形(おぎょう)とも呼ばれ、



人形の意です。春の七草に数えられるオギヨウまたはゴギヨウは、この母子草のことです。昔は若苗を摘んでもちや団子に入れてついたのですが、今ではヨモギがこれに代わっています。母子草という名前の由来には、茎や葉が産毛に覆われているため、母が子を包んでいくように見えることからとの説があります。(薫)

老いて尚 なつかしき  
名の母子草 高浜虚子